

Citation: Gloss D, Vickrey B. Cannabinoids for epilepsy. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2012, Issue 6. Art. No.: CD009270. DOI: 10.1002/14651858.CD009270.pub2.

CRG名: Cochrane Epilepsy Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 16 MAY 2012

Clib issue No.; N/U: 2012 Issue 6; N

アブストラクト

背景: マリファナは動物において抗てんかん作用を示すようである。てんかん患者においてマリファナが有効であるかは現在不明である。米国の一部の州では、てんかんに対しマリファナの使用を承認している。

目的: てんかん患者の治療におけるマリファナまたはその成分の有効性を評価すること。

検索戦略: Cochrane Epilepsy Group Specialized Register(2012年5月15日)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL第4号、コクラン・ライブラリ2012年)、MEDLINE(PubMed、2012年5月15日検索)、ISI Web of Knowledge(2012年5月15日)、CINAHL(EBSCOhost、2012年5月15日)、ClinicalTrials.gov(2012年5月15日)を検索した。さらに、本検索および同定した研究の参考文献では認めなかった、個人的に知りえた研究を選択した。

選択基準: 盲検化を問わない、ランダム化比較試験(RCT)。

データ収集と分析: 2名のレビューアが組み入れについて別々に試験を選択しデータを抽出した。検討した主要アウトカムは、1年以上の時点、または最長の発作間欠期の3倍の期間の時点での発作消失であった。副次アウトカムは、6か月以上の時点での奏効者割合、客観的な生活の質データ、有害事象であった。

主な結果: 治療薬としてカンナビジオールを使用した計48名を対象とした4件のランダム化報告を認めた。1件の報告は抄録で、他は投書によるものであった。すべてにおいて、抗てんかん薬を継続していた。いずれの研究もランダム化の詳細を述べていなかった。コントロール群と投与群が同一か異なるものかの検討はなかった。すべての報告の質は低かった。

4件の報告は、副次アウトカムについては有害事象のみ回答していた。投与群で有害な作用を被った患者はいなかった。

レビューアの結論: てんかんの治療としてカンナビノイドの有効性に関する確実な結論を現在出すことはできない。200~300 mg/日のカンナビジオールを少数の患者に概ね短期間は安全に投与されていたが、カンナビジオール長期投与の安全性は信頼できる方法で評価することはできない。

簡易な要約(Plain language summary)

てんかんに対するカンナビノイド

てんかんとは、反復性の発作が不意に起こる障害である。発作の半数以上は抗てんかん薬で管理可能であるが、残りの患者は他の薬剤を試すことを所望する。マリファナ、すなわちカンナビノイドはそのような薬物の一つである。本レビューでは、てんかんをコントロールする治療として、マリファナ(カンナビノイド)の有効性を評価した。

てんかんの治療としてカンナビノイドの有効性に関する信頼できる結論を現出することはできない。さらなる試験が必要である。

(監訳 江川 賢一)

翻訳公開日:2012年10月31日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。